

理科普及活動における連携のかたち

—新潟大学理学部地質科学科の実践例—

松岡 篤

新潟大学理学部地質科学科, 〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町 8050
matsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp

Cooperation in science education among university and other organizations

A case study in Department of Geology, Faculty of Science, Niigata University

Atsushi MATSUOKA

Department of Geology, Niigata University, Niigata 950-2181, Japan

Keywords: Science, education, outreach, cooperation, university

はじめに

大学は、教育・研究活動において、企業、行政、各種の法人など、さまざまな組織とどのような連携をしていくのか模索している状況にある。また、地域社会との関わりも深めつつある。校舎の改修に際して、新潟大学理学部にサイエンスミュージアムが誕生した。これが契機となり、大学を地域により開かれたものにするために、いろいろな取組がなされている。理科普及活動について、新潟大学理学部地質科学科の実践例について紹介する。

サイエンスミュージアム

地質科学科には、改修前にも標本室があったが、学部教育用にもっぱら利用されていた。2007年に理学部校舎が改修され、標本展示用の施設がつけられた。90m²のこの施設はサイエンスミュージアムと名づけられ、2007年12月に正式オープンし、学内外に無料開放されている。ミュージアムの日常の業務は、地質科学科から委託を受けたNPO法人ジオプロジェクト新潟が担当している。

NPO 法人ジオプロジェクト新潟

地質科学科と連携するNPO法人で、学科の教員と卒業生・在校生が構成員となっている。現在、会員は20名ほどで、学位をもつ学科の卒業生が事務局長に就いている。教育・出版事業、調査・解析事業、研究・開発事業を展開し、主に調査・解析事業から運営資金を得ている。地質科学科が実施する各種の活動を支え、サイエンスミュージアムの来訪者については、ジオプロジェクト新潟が人員を配して対応している。科学技術振興機構(JST)の普及支援事業についても、このNPO法人が積極的に実施に関与している。

化石の研究体験教室

JST が公募する地域科学技術理解増進活動推進事業に、新潟大学理学部地質科学科、ジオプロジェクト新潟、新潟市西区の三者が連携する表題の企画を申請し、採択された。地域の子どもたちに、化石をとおして地球の歴史を考えるきっかけを与えることが活動のねらいである。このイベントの参加者募集については、西区の政策企画課をとおして、地域の小学校に申込書の配布を行った。

新潟大学旭町学術資料展示館の企画展

新潟大学には学術資料の展示設備として旭町学術資料展示館がある。本館は、大学病院のある市内の中心部に立地している。通称、あさひまち展示館とよばれ、一般市民向けに公開されている。この展示館には企画展示室があり、企画展を学内公募により実施している。2008年度の企画展として、地質科学科が提案した「頭足類展 アンモナイトとその仲間たち」が採択され、夏休み期間を含む3ヶ月間開催されている。この企画展は、ジオプロジェクト新潟と福井市自然史博物館の協力、新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、新潟日報社、BSN新潟放送、新潟県立自然科学館、フォッサマグナミュージアム（糸魚川市）の後援を受けている。この企画展に際しては、西区の協力を得て、区内の小学生および中学生全員に、13,000枚のチラシを配布した。また、西区の広報誌を利用させていただき、地域住民への周知を行った。さらに、組織連携の具体的な活動として、スタンプラリーを実施している（図1）。

スタンプラリー

スタンプラリーは、サイエンスミュージアム、あさひまち展示館、自然科学館の三者の間で実施している。サイエンスミュージアムは、昨年末にオープンしたばかりで、その存在自体が知られていない。また、市内の中心部から離れた五十嵐地区に立地している。あさひまち展示館も、それほど知名度が高いとはいえない。それに対して、自然科学館は普及活動を本務とする施設であり、多数の来館者がある。多くの子どもたちが、スタンプラリーに参加し、サイエンスミュージアムとあさひまち展示館の企画展に足を運び、スタンプラリーの記念品である「本物の化石」を手に入れた。



図1 新潟大学サイエンスミュージアムでのスタンプラリーの様子。記念品の「本物の化石」を見つめる子ども。

おわりに

本演旨は、「体験教室」および「企画展」の実施のさなかに執筆されている。従って、現段階では連携の効果を評価する段階にはない。むしろ、進行形の行事として、より効果的な連携の仕方を模索しているところといえる。

新潟大学では、「西区でアート」という芸術を媒体とした大学（教育学部が主体）と地域との連携事業が先行して展開されている。今後、この枠組みとの接触をはかり、地域・アート・サイエンスの繋がりを構築していきたい。